

フリージア

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月 作型・病虫害名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
無加温彼岸出し												
冷蔵無加温12～2月出し												
首腐病 ヨトウムシ類 ネダニ類												

球根腐敗病

留意事項

- 1 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。
- 2 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作を避ける。
- 3 発病株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
 - 【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】
- 5 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ホーマイ水和剤](#) <M3><1>
 - 【200倍 30分間球根浸漬 植付前又は貯蔵前/1回】または
 - 【球根重量の1.0% 球根粉衣 植付前又は貯蔵前/1回】

首腐病

留意事項

- 1 病原菌は土壌害虫や作業等による傷口から侵入することが多い。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 土壌の過湿を避ける。
- 3 多発ほ場での栽培を避ける。
- 4 被害株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>

【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では開口部に寒冷しゃ等を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期/5回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN>
【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期/4回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13>
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期/2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) <28>
【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期/4回】

ネダニ類

留意事項

- 1 ネダニ類の寄生が疑われる球根（萎縮、腐敗等）は、植付けしない。また、植付け後に気づいた場合（不発芽、生育遅延等）は掘り取って処分する。
- 2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、たまねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 pHが5～6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。
- 3 健全な球根を使用する。
- 4 収穫残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 植付前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネマキック粒剤](#) <1B>
【花き類・観葉植物(除きく) 20kg/10a 全面土壌混和 植付前または定植前/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。